

2010年度(2011年3月期) 第3四半期決算説明会



2011年1月31日
大正製薬株式会社
広報室長 坪井 正樹

2010年度第3四半期決算：概要



第3四半期(累計): 損益の概要

(億円)

	2009年度 3Q	2010年度 3Q	前年同期比増減	
売上高	2,029	2,077	+48	+2%
セルフメディケーション事業	1,247	1,311	+65	+5%
医薬事業	783	766	▲17	▲2%
営業利益	292	403	+110	+38%
経常利益	306	436	+130	+42%
四半期純利益	158	259	+102	+64%

注: 金額は億円未満四捨五入

2010年度第3四半期の概況(1)



- ・ **セルフメディケーション事業(国内)**
 - 主カブランド: ほぼ計画通りの推移
 - ・ リアップシリーズ: 引き続きリアップX5が伸長
 - ・ リポビタンシリーズ: その他100mLが好調
 - ・ パブロンシリーズ: 総合感冒薬が伸長
 - リビタシリーズ、通販などH&B関連も順調

<ご参考:市場の状況>

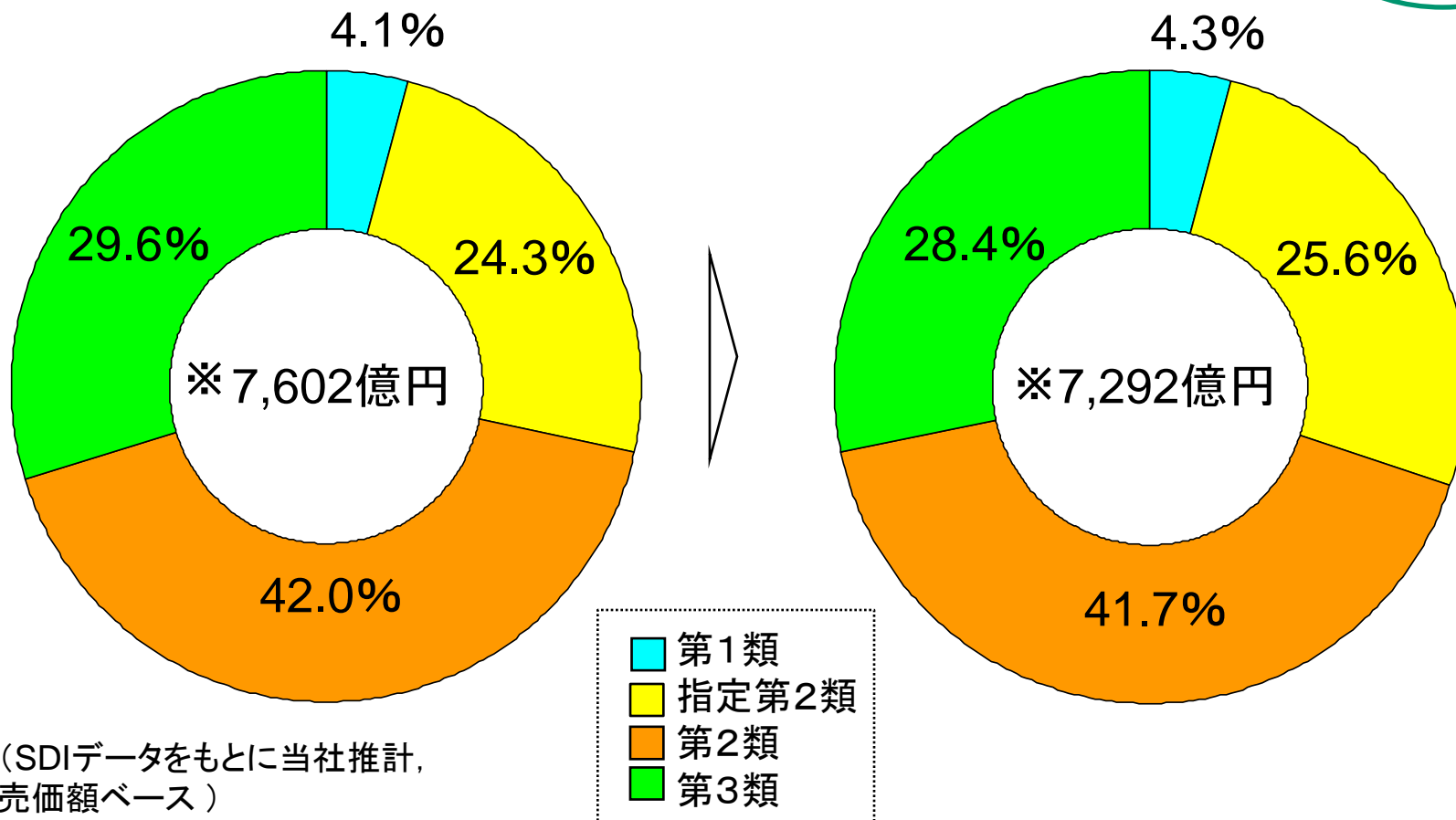
- OTC医薬品市場
第3四半期累計(4~12月): 前年同期比5%減

OTC医薬品分類別構成比



国内OTC医薬品市場における構成比 ※ 分類不明分は除く
(2009年度4～12月) (2010年度4～12月)

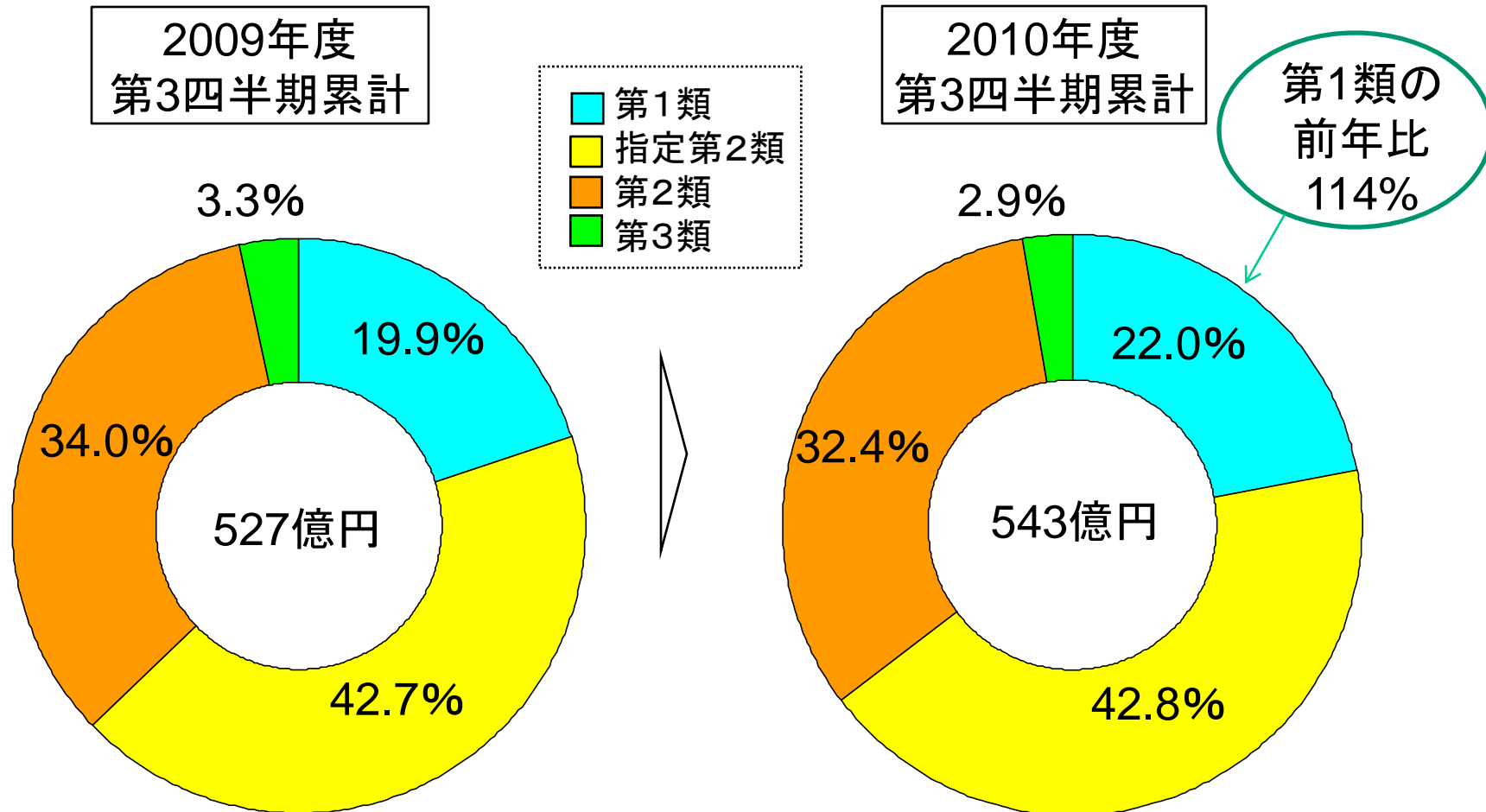
第1類の
前年比
99%



当社のOTC医薬品分類別売上構成比



- 第1類医薬品はリアップX5の寄与で引き続き伸長、構成比も上昇



アジアOTC事業について



- ・ アジアOTC医薬品事業*の業績
 - 第3四半期累計の売上・利益は計画を上回った
(売上高35億円、営業利益19億円)
- ・ 通期計画を上方修正
 - 売上高47億円(従来予想43億円)、
営業利益23億円(同20億円)
のれん等償却約20億円で
アジアOTC事業トータルの営業利益は
若干のプラスに

* 大正製薬インドネシア(旧BMSI)とアジアOTC事業統括会社(シンガポール)の合算

2010年度第3四半期の概況(2)



・ 医薬事業(大正富山医薬品)

- 引き続きゾシン、オゼックスの増収が寄与
- クラリスは昨シーズンの新型インフルエンザ流行の反動があるものの、計画線の推移
- 大正富山医薬品の抗菌薬市場*シェアは16.5%、着実に上昇し、トップの地位を固めている

(*J01抗菌薬市場)

<ご参考:市場の状況>

- 医療用医薬品市場:前年同期比0.3%減
 - ・ 当社の主力市場である抗菌薬市場は3.6%減
(経口2.2%減、注射5.5%減)

Copyright 2011 IMS ジャパン株式会社

JPM 2009年4月~2010年12月

無断転載禁止

2010年度3Q : 売上高・利益の増減要因



(期初からの9ヶ月累計、前年同期比増減額)

<p>売上高 (+48億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+65億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +15億円 アジアOTC +35億円 リビタシリーズ +3億円 海外ドリンク剤 +6億円</p>	<p>医薬事業 (▲17億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 ▲3億円 中間製品等 ▲14億円</p>									
<p>営業利益 (+110億円)</p>	<p>売上総利益*: +26億円 (売上総利益率* 前年同期65.0%→当期64.7%) 販管費: 84億円の減少</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">内訳 研究開発費 ▲76億円</td> <td style="width: 33%;">販促費 ▲6億円</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td> 広告宣伝費 ▲19億円</td> <td>減価償却費 +5億円</td> <td></td> </tr> <tr> <td> のれん償却 +5億円</td> <td>システム関連 +8億円</td> <td></td> </tr> </table>		内訳 研究開発費 ▲76億円	販促費 ▲6億円		広告宣伝費 ▲19億円	減価償却費 +5億円		のれん償却 +5億円	システム関連 +8億円	
内訳 研究開発費 ▲76億円	販促費 ▲6億円										
広告宣伝費 ▲19億円	減価償却費 +5億円										
のれん償却 +5億円	システム関連 +8億円										
<p>営業外損益: 持分法投資損失は13億円減少(前年同期31億円→当期18億円)</p>											

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

2010年度：通期業績予想



業績予想を修正

(億円)

	修正 予想	前期比増減		対従来 予想比	従来 予想
売上高	2,655	+71	+3%	+0	2,655
セルフメディケーション事業	1,670	+81	+5%	▲2	1,672
医薬事業	985	▲11	▲1%	+2	983
営業利益	410	+63	+18%	+20	390
経常利益	450	+83	+23%	+20	430
当期純利益	275	+80	+41%	+15	260
EPS(円)	98.9	+30.9	+45%	+6.3	92.6
(参考)					
大正富山医薬品売上高	870	+6	+1%	0	870

注：金額は億円未満四捨五入
従来予想は2010年10月29日発表の予想

通期見通し：事業別売上高



- ・ **セルフメディケーション事業 (▲2億円)**
 - － 国内主力ブランドの予想を見直し
 - ・ 2Q発表時に予想からはずした新製品(新規領域等)の売上寄与をすべて既存品でカバーするのは難しいと判断
 - － 海外OTC: 予想引き上げ(+4億円)
- ・ **医薬事業 (+2億円)**
 - － 足元の状況を反映
 - ・ 大正富山医薬品: 製品別については3Qまでの状況を反映するが、全体では870億円を据え置き

主要ブランドおよび製品の売上高



(億円)

	2010年度 3Q*実績	対前年 増減額	通期 修正予	対前年 増減額	対従来 予想比	通期 従来予
リポビタンシリーズ	585	+5	714	+6	▲8	722
パブロンシリーズ	184	▲2	253	+4	▲2	255
リアップシリーズ	116	+17	148	+21	+1	147
リビタシリーズ	26	+3	37	+6	+2	35
クラリス	166	▲14	222	▲11	▲11	233
パルクス	79	▲7	100	▲8	-	100
ゾシン	114	+31	145	+38	+2	143
ジェニナック	32	▲16	41	▲7	▲9	50
オゼックス	31	+12	40	+12	+3	37

*期初からの9ヶ月累計

予=予想

通期従来予=10月29日発表の予想

注:金額は億円未満四捨五入

2010年度通期予想：売上高・利益の増減要因



(前年同期比増減額)

<p>売上高 (+71億円)</p>	<p>セルフメディケーション事業 (+81億円) (主な増減要因) 国内OTC薬等 +27億円 アジアOTC +39億円 リビタシリーズ +6億円 海外ドリンク剤 +6億円</p>	<p>医薬事業 (▲11億円) (主な増減要因) 大正富山医薬品 +6億円 中間製品等 ▲16億円</p>								
<p>営業利益 (+63億円)</p>	<p>売上総利益*: +43億円 (売上総利益率* 前年同期64.5%→当期64.4%) 販管費: 20億円の減少</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">内訳 研究開発費 ▲40億円</td> <td style="width: 50%;">販促費 ▲1億円</td> </tr> <tr> <td> 広告宣伝費 ▲10億円</td> <td>人件費 +3億円</td> </tr> <tr> <td> 減価償却費 +6億円</td> <td>のれん償却 +5億円</td> </tr> <tr> <td> システム関連 +13億円</td> <td></td> </tr> </table>		内訳 研究開発費 ▲40億円	販促費 ▲1億円	広告宣伝費 ▲10億円	人件費 +3億円	減価償却費 +6億円	のれん償却 +5億円	システム関連 +13億円	
内訳 研究開発費 ▲40億円	販促費 ▲1億円									
広告宣伝費 ▲10億円	人件費 +3億円									
減価償却費 +6億円	のれん償却 +5億円									
システム関連 +13億円										
<p>営業外損益: 持分法投資損失は18億円減少(前年同期39億円→当期21億円)</p>										

*返品調整引当金繰入・戻入調整後 注:金額は億円未満四捨五入

セルフメディケーション事業：新製品



<2010年度：主な新製品>

<第1四半期>

デリトリーナ

<第3四半期>

ゼナFO-I α

シガノンCQ透明パッチ

ナチュラルケア 緑茶<GABA>

<第2四半期>

ヴィックスMドロップ

シュガーレスグレープフルーツ

ドウファイバー粉末スティック

<グアーガム>

<第4四半期>

ダマリングランデアイススプレー

など

赤文字：発売済みの製品

医療用医薬品：新薬パイプライン(1)



国内

(2011年1月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
承認(2010年6月18日)			
クラリス錠200 (経口)	<u>マクロライド系抗菌薬</u> 3剤併用*1による胃MALTリンパ腫、早期胃癌に対する内視鏡的治療後胃、及び特発性血小板減少性紫斑病におけるヘリコバクター・ピロリの除菌(適応追加)	3剤併用療法に係る9社*2による公知申請	大正製薬
承認(2011年1月21日)			
エディロールカプセル 0.5μg、0.75μg (経口)	<u>活性型ビタミンD₃誘導体</u> 骨粗鬆症 (開発コード:CT-081*3 一般名:エルデカルシトール)	中外製薬共同	中外製薬

*1 プロトンポンプ阻害薬(ランソプラゾール、オメプラゾール、ラベプラゾールナトリウム)及びアモキシシリン水和物を用いた3剤併用

*2 大正製薬、アボット ジャパン、アステラス製薬、アストラゼネカ、エーザイ、協和発酵キリン、塩野義製薬、武田薬品工業、田辺三菱製薬

*3 CT-081:中外製薬における開発コードはED-71、中外製薬が申請

医療用医薬品：新薬パイプライン(2)



国内(続き)

(2011年1月31日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2/3			
CT-064* (注射)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ
フェーズ2			
TT-063 (外用)	<u>エスフルルビプロフェン含有消炎鎮痛貼付剤</u> 変形性関節症、肩関節周囲炎、筋肉痛等	トクホン共同	トクホン
TS-071 (経口)	<u>SGLT2阻害作用</u> 1型糖尿病、2型糖尿病	自社	大正製薬
CT-064* (経口)	<u>ビスフォスフォネート系骨吸収抑制剤</u> 骨粗鬆症	中外製薬共同	ロシュ

* CT-064: 中外製薬における開発コードはRG484

医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



国内(続き)

(2011年1月31日現在)

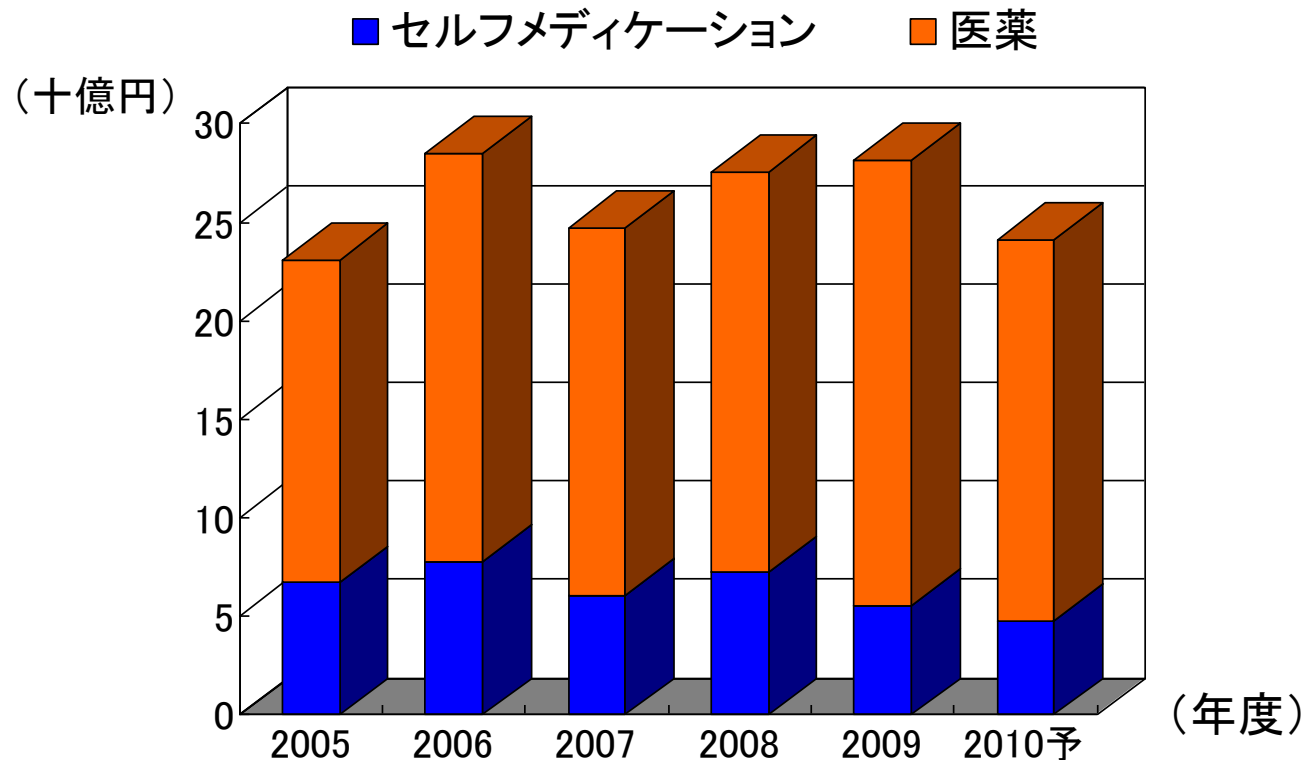
	特長他 予定適応症	開発形態	オリジン
フェーズ2(続き)			
NT-702 (経口)	<u>気管支拡張作用、細胞浸潤抑制作用</u> 気管支喘息	日産化学共同	日産化学
NT-702 (経口)	<u>血管拡張作用、血小板凝集抑制作用</u> 閉塞性動脈硬化症に伴う間歇性跛行	日産化学共同	日産化学
パルクス (注射)	<u>プロスタグランジンE1製剤</u> 腰部脊柱管狭窄症に伴う間歇性跛行 (適応追加)	自社	大正製薬／ 田辺三菱製薬

研究開発費の動向



第3四半期累計実績：151億円（前年同期比▲76億円）

通期計画：255億円から241億円に修正
（両事業ともに7億円引き下げ）



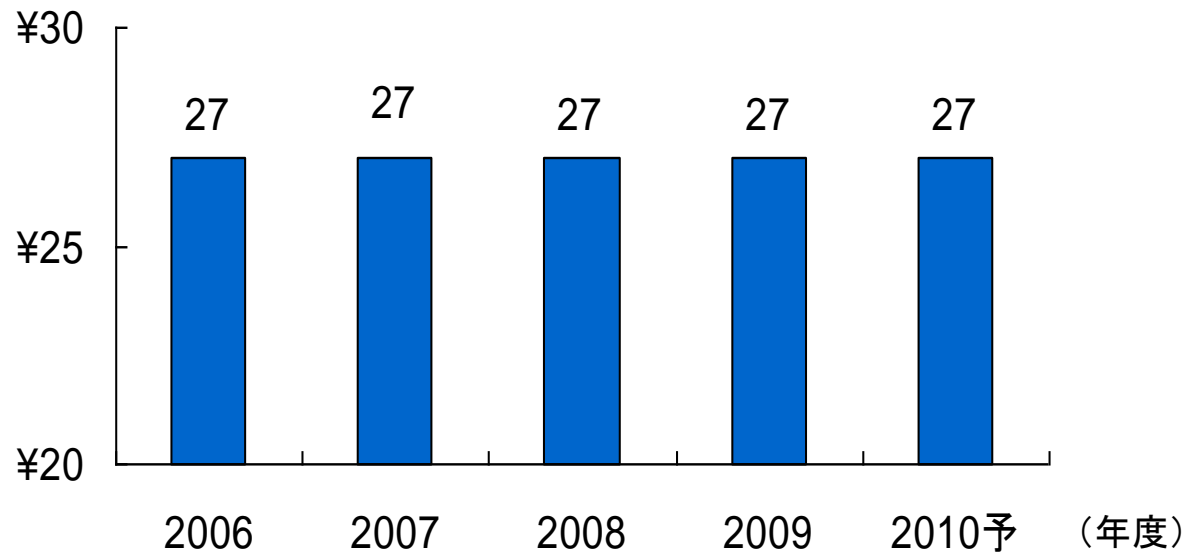
株主還元



- ・ 自己株式取得について:
 - 取得株数・金額: 500万株 (9,008,878,000円)
 - 取得期間: 2010年11月1日～2011年1月26日まで

- ・ 配当

- 年27円/株を予定



1株あたり配当金の推移